



車椅子でピースサイン！(ラッセホール玄関前で、3月1日)

3月1日(日)、ラッセホールで08年度兵教組社会貢献事業贈呈式がおこなわれ、関係者95人が参加した。今年度は、吉田未夢さんら県内の児童・生徒10人に「若草寮」と「泉心学園」の2施設。今年度は、吉田未夢さんら県内の児童・生徒10人に「若草寮」と「泉心学園」の2施設。今年度は、吉田未夢さんら県内の児童・生徒10人に「若草寮」と「泉心学園」の2施設。

兵教組は、障害児(者)施設との連携をはかるため、1979年より障害児(者)施設へのバス寄贈事業、1983年より車椅子寄贈事業を進めてきた。2007年度より、兵教組「教育文化・社会貢献事業」として多くの教職員の協賛金によって運営されており、「福祉自動車支援事業」「車椅子支援事業」「児童養護施設等への支援事業」にとりくんでいる。

08年社会貢献事業
「みんなと一緒にいく自然学校が
すごくだのしみです」

教育ひょうご

発行所 神戸市中央区中山手通4丁目10-8

兵庫県教職員組合

発行人 山 名 幸 一
編集人 西 嶋 保 子
電話 050 (3538) 2346
1部 7円 年定価280円
(組合員の購読料は組合費の中に含む)

2009/3・11

No. 1736

2面

・第22回学校給食を考える集い
「地産池消と学校給食
安全安心の学校給食をめざして」
(要旨)

第58次 日教組全国教研

平和・人権・環境・共生への思い

「平和を守り真実をつらぬく 民主教育の確立を」

第58次教育研究全国集会(全国教研)が2月21日から3日間、広島市で開催された。全国から延べ12,000人が参加。兵教組から32人のリポーターを含む95人が参加した。昨年の第57次全国教研の全体集会是、プリンスホテルの突然の会場使用拒否により、やむなく中止となった。(現在、訴訟係争中)



全体会場いっぱい参加者たち。(2月21日、広島国際会議場で)

今年度の全体集会是、平和祈念公園内の広島国際会議場で、全国から集まった約3,500人の参加者とともにおこなわれた。

児童生徒、地域の方も参加していたイベントや模擬店、もちつき、綱引き、ビンゴ大会、難病と闘うミュージシャンを招待し、近郊小学校体育館で地域の方々にも参加を呼びかけ、勇気について考え、歌い、命の大切さについて語り合うクリスマスコンサート。児童約100名が参加するチャレンジランキング大会では、空き缶積み、雑巾がけ、紙飛行機とばしなど様々な競技にチャレンジ。大会のスタッフとして、学園の中・高生が活躍している。

オープニングは、中・高校生による平和活動報告・平和へのメッセージから始まり、被爆体験者による語り、日中について考えた、高校生制作の映画の上映など「ヒロシマ」ならではのものとなった。



中村謙日教組委員長は、日教組運動の歴史的起点でもある広島開催の意義深さを語った。また、医療・年金・介護などの福祉、教育までも含んだ「聖域なき構造改革」が「貧困と格差の社会」を生んだと批判。「教育の民営化」や「学テによる競争と点数による順位づけ」で子どもたちを煽りたてる現状に、「不易なる価値」の強制による国家主義・新保守主義が重ねられていくとも。また、日本の子どもたちの7人に1人が就学困難な相対的貧困層となっている社会・教育の現状に、「私たちの社会的役割と責任は大きい。働く仲間、地域住民や保護者、研究者、教職員、教育行政、政治が『子どもたちの最善の利益』を真剣に考え、社会的対話を重ねよう」と呼びかけた。

分科会参加者の感想

小・中9年間の成長を見据えた総合学習を考え、連携を一層強化することも必要と感じた。(芦屋・総合学習) 青年層からのリポートが目立った。過去と未来、環境・平和・国際理解教師・校内・地域、アジアの国々と、様々な「つながり」が論議された。(川西/平和) 経済格差は教育格差へ直結している。やはり政治を変えなくてはならない。(佐用/教育条件整備の運動) 障害児(者)が、生き生きと生活できるような「社会モデル」を兵庫の教育から全国へ発信できないかと思う。(宝塚/障害児教育) 兵庫の教育がいかに子どもを中心にとりくんできたのかを確認できた。今後にも更に県教研をいいものにしていく。(神戸/高等教育・選抜制度と進路保障) 保護者を代表したPTA活動の報告があった。兵教組も組合を支えてくれる一般の方々に報告してもらいたい。(多紀/地域における教育改革とPTA) 話題は「小学校外国語活動」。導入進行報告で、中学校から興味を無くし英語を嫌う生徒が年々増えているとあった。また、「準備時間的に担任ができるものではない」「外国語教育の目的を考えると、今やっていることに疑問を感じる」と本音が聞けた。(加小/外国語)

特別分科会

教育格差と学力保障
吹田市教育委員の内田慶市さん(関西大学教授)が講演。(詳細は月間JTU3月号参照)

子どもの安全・安心と学習権保障

兵庫舞子高校の諏訪清二さんと卒業生(高校・大学)による、中国・四川の活動報告。子どもたちとの交流やとりくみ、意見を述べる姿は、阪神・淡路大震災の教訓を生かした兵庫の教育の一面を映していた。

感想に「人とのつながり、エンパワーメント、子どもの生活権・学習権から、中学生の部活動が勝利追求型から自己肯定感を獲得していく大切な教育活動の位置づけを確認する必要性を痛感した」(姫路)とあった。

月々800円でこれだけの保障

それが総合共済！ (うち、70円は損保ジャパンの保険料です)



教職員共済



火災等

落雷や車両の飛び込み等も対象となります

最高100万円



災害見舞

災害見舞金3万円

特別見舞金50万円以内
※火災等共済金・住宅災害等共済金とは併給しません



入院・休業

疾病・介護等のため30日以上連続して休業すると...

年度1回2.5万円



傷害

業務中または通勤途中のケガで4日以上通院したら...

年度1回1万円
※入院・休業見舞金とは併給しません



死亡

ケガによる120万円
(うち損保分100万円)

ケガ以外による死亡20万円
配偶者の死亡5万円



住宅災害等

地震・台風・洪水・降雪等による被害も対象となります

最高100万円



個人賠償

(損保の補償です)

ご家族全員の法律上の賠償責任を補償します(ただし自動車事故等は除きます)

最高1,000万円



介護

(損保の補償です)

ケガが原因で重度後遺障害を被り所定の要介護状態になったら...

年間60万円



後遺障害

ケガによる110万円以内
(うち損保分100万円以内)

ケガ以外による後遺障害10万円以内



退職

契約後1年以上の掛金払い込みがあればお支払いします

(最高で)掛金払込月数×400円

●総合共済は、教職員共済生活協同組合の制度である「総合共済」と、株式会社損害保険ジャパンの商品である「傷害総合保険」を組み合わせたものです。
●この広告は「総合共済」の概要をご説明したものです。ご契約にあたっては必ずパンフレットおよび重要事項等説明書(契約概要・注意喚起情報)をご覧ください。制度内容をご確認ください。 承認 08-56-24 (0812)

お問合せ先：教職員共済生活協同組合 兵庫支部
TEL：078-221-9730
神戸市中央区中山手通 4-10-8 まで

地産地消へのとりくみの問題点や希望の声など、直接生産者側の代表に聞いてもらえる貴重な場となった。（2月27日、ラッセホールで）



第22回学校給食を考える集い

シンポジウム

「地産地消と学校給食～安全安心の学校給食をめざして～」

「生きた教材としての学校給食の推進へむけて」

子どもたちの教育課題と食の問題は、今やとて深いかかりがあると言われるようになり、学校現場において「食育」推進の重要性も増してきている。学校栄養職員も約9割が栄養教諭となり、食育のコーディネーター役を担っている。「安全・安心・おいしい給食」を目指しとりくむ中、学校給食と地産地消について考える機会となった。

2月27日、兵教組栄養職員部は「第22回学校給食を考える集い」をラッセホールでおこない、保護者23人を含む89人が参加した。

「地産地消と学校給食」安全安心の学校給食をめざして」をテーマのシンポジウムでは、保田茂さん（神戸大学名誉教授・兵庫農山村社会研究所代表）をコーディネーター、黒坂真美子さん（豊岡・栄養教諭）、片山仁史さん（JA兵庫中央農政広報課課長）、柴田昌彦さん（兵庫県漁業協同組合連合会流通加工事業部本部長）の3名をパネリストに、会場の質問や意見を交えながらの会となった。

はじめに

（保田）「食育」が声高に叫ばれ、食の安全・安心が社会問題



保田 茂さん

になっている。学校給食の合理化は依然として続いており、みなさんから問題提起していただきたい。

日本の経済は大量生産時代を過ぎた。今の子どもたちが社会にでる頃、これまでのようなものづくりの仕事はないのではないかと。改めて、農村に新たな職場がつくられ、村から街へ送り出していた子どもたちが村に留まり、逆に街から村に送り出す視点を考えていく必要があるのではないか。

これからの社会を考える上で、地産地消も大事な課題の一つ。学校給食の原点である、地元食材を使い、より安全・安心、心のこもった給食をどう作っていくのかを考えたい。

地産地消の成果と課題

（黒坂）一日高学校給食センターのとりくみ

学校給食の目標は、安全・安心、食育につなげる、地域とつながり、地域を大切にすること。献立内容の充実としての地産地消、ふると給食を月2回取り入れ、手作り料理の導入、楽しい給食をめざしたリクエストメニューや幸せにんじん、セレクト給食、行事食などを提供している。食に



黒坂 真美子さん

関する指導の充実として、学校訪問による給食指導をおこなってきた。

食育と地産地消

学校へ納入可能な生産者から、20種類の野菜を入れている。納入時の様子や畑の写真を撮り、資料として学校に提供する。また、子どもたちが生産者の元へインタビューに出かけたり、学校で生産者に授業をしてもらったりしている。畑では土作りから教えてもらい、とれた野菜で子どもたちが調理し、生産者と一緒に給食を食べる会もおこなっている。毎日子どもたちの元にお便りを届けるとともに、食育だよりとして、月1回、各家庭に配布している。

成果

二桁を割らなかった給食の残菜量が、4～5%に減少した。子どもたちに、強制的に食べさせたわけではなく、「自ら食べようという気持ち」や、「感謝の心」が育っている。アンケート結果からは、「児童が落ち着いてきた」「家庭でも食料や食に関心をしめすようになった」「子どもが関心を示すため、親も無関心ではいられなくなった」とい



う回答があった。

また、生産者にとっても納入時に情報交換でき、生産意欲の向上につながっているようだ。

今後の課題

関係機関との連携を密にすることが重要。生産者の確保、取り扱い品目を増やすことなどがあげられる。問題は収穫がずれた場合の対処法だ。また、大豆納入時には、市内全域分の一括納入による保管場所の確保の問題があった。

JAの食農教育活動

（片山）

地産地消学校給食として、様々な食情報の提供や体験活動とあわせて、地域、学校、家庭にJAとしてできることは何かと考えている。

特に学校給食では、農として提供するだけではなく、食育で教材として活用してもらいたい機会ではないか。見える食材を通して、子どもたちに食と農の理解を広げてもらい、子どもたちを通して家庭の食生活の改善へのつながりなど期待している。地元のもの愛用してもらうことにより、新たな販路としての消費拡大、生産者の所得の向上、地域の活性化へつながるのではないかと。

また、子ども、教職員、保護者からの様々な情報から、生産者のやりがいや自信、給食という絶対安全でなければならぬという意識が、生産履歴記載90%以上の数字にも表れている。学校給食の食材は、農家にとって安定した所得へつ



片山 仁史さん

なかり、コンテナ流通による包装費の軽減などのメリットがある。しかし、小さい産地の場合は、いかに欠品を出さないようにするか、きつちりものを作り、ある程度の融通の利く生産者でなければならぬ点が拡大の制約になる。

今後は、このように関係者が集まって話し合える場を持つことや、価格・運搬・規格の決定、加工品の生産を増やすことなどがあげられる。

兵庫県漁連のとりくみ

（柴田）

体験交流教室で、魚料理の調理や海のことを知ってもらおう「お魚教室」の開催、修学旅行生を受け入れての漁業体験などをおこなっている。

漁業者は、学校給食センターに持ち込めば使ってもらえるという感覚のズレがある。安心・安全の確保は当然のことながら、安定供給の確保ができるかの課題がある。そういう意味では、加工品でカバーできるのではないかと考える。

また、魚の食べ方の提案も重要になっている。地域性や教育方針にもよるが、骨のある魚、ない魚と、学校によって違う。このような様々なニーズに合わせたおいしい食べ方を提案し、楽しんで食事できるようにしたい。しかし、大きな問題に価格がある。輸入品と比べると県産は高い。「使いたいが使えない」という声を聞く。この価格の差をどう埋めるかがこれからの



柴田 昌彦さん

課題でもある。

特に漁村は、漁業がないと、地域の経済、文化、自然が成り立たなくなる。地域産業を守る面でも、食育活動の一環として、地産地消の食材を学校給食に取り入れてもらうよう働きかけたい。

教材としての地産地消

食育の6つの目標

①豊かな人間性、命の大切さを学ぶ

②生活能力を磨く

③食文化をつなぐ

④健康に生きる知恵を磨く

⑤環境の大切さを学ぶ

⑥食料の持久力を守る

これらの目標と地産地消がどうからむか。これが学校給食における地産地消の考え方の狙いになる。食育における地産地消は、「子どもの幸せ」のためであり、現場に子どもたちが出ていって学ぶこと、地域の食文化を学ぶこと、健康に生きる知恵を磨くような機会にもなり、環境にもつながっていく。最後に食料自給率を学ぶような機会にもなる。「食育」という言葉の中で、こうした全てが重なり「地産地消」が有効な教材として扱えるのではないかと。

参加者の感想

生産者と子どもたちがつながること、食べ残しが減ったり、感謝の気持ちや食に対する関心が高まることなど興味深かった。（神戸）体験学習や教室など、積極的に進めたいが、情報交換がうまく出来ていないため、より密な連携が必要だと感じた。（豊岡）

地産地消をすすめるためにも、生産者側、学校側の課題を出し合う必要があると感じた。（揖龍）

兵庫県学校厚生会の積立預金プラン

将来を見据え計画的に貯えたい方に

すまいる積立預金

変動金利
半年複利

3年もの 0.55%
(税引後年利0.44%)

4年もの 0.60%
(税引後年利0.48%)

5年もの 0.65%
(税引後年利0.52%)

貯えの場が
大きく繁るよ

定期預金

1年もの 0.55%
(税引後年利0.44%)

2年もの 0.60%
(税引後年利0.48%)

3年もの 0.65%
(税引後年利0.52%)

5年もの 0.75%
(税引後年利0.60%)

積立預金

変動金利
半年複利

0.50%
(税引後年利0.40%)

毎月少しの負担で着実に貯えたい方に

計画的に将来を考えた
大きく育てよう

預金に関するお問い合わせは、支部事務所又は信用共済部まで
（財）兵庫県学校厚生会 信用共済部

〒650-0012 神戸市中央区北長狭通 4 丁目 7-34 TEL (078)331-9974 (直通)
<https://www.kouseikai.jp>